

2018年7月11日

山東島津放射線技術講座 第3期第4回講義 報告

佐藤 敏幸

2018年6月2日から6月12日まで島津山東放射線技術講座の講義のため中国山東省済南市にある山東医学高等専科学校（以降 山東医専）を訪問しました。同校での集中講義を4日間行った後、北京に移動し、島津中国の駐在員の方々とお会いした後帰国しました。私にとって初めての中国訪問で、さらに初めての集中講義となり、正に初めて尽くしの出張となりました。

集中講義の対象者は放射線学科の1年生約200名です。1年生と言っても中国では9月が新学期開始ですので、2年生に進級する直前の学生さんということになります。また、山東医専の修了年限は3年で3学年は病院実習期間となります。従って、今回集中講義を受講した学生さんは同校での学修のほぼ半分を終えており、知識レベルとしては日本の大学の2学年修了程度ではないかと思われます。

集中講義の内容ですが、私が本学で担当している医用工学の中から、電子工学概論として半導体の基礎物性とそれに関連する半導体素子、基本的な電子回路、電子回路の応用であるフラットパネル放射線検出器を選択しました。これらの内容は本学では2年生前期の医用工学Ⅱの後半7コマの内容に相当します。当初一年生が受講者と聞き、講義内容を理解してもらえるかという不安もありましたが、先に述べたように学修のほぼ半分を修了していることで違和感なく受講してもらえたものと思っております。



講義の様子 左の方が李教授



李教授、講義を見学に来られた島津中国の吉田さん

講義は朝の8時から11時と昼休みの休憩をはさんで14時から16時まで行いました。山東医専の標準的な時間割は2時間を1コマとして、50分ごとに10分の休憩となっています。集中講義なので切りの良いところで休憩をいれて良いと山東医専の集中講義の担当者である李教授に言われたのですが、標準的な時間割に倣って、50分講義の後に10分の休憩

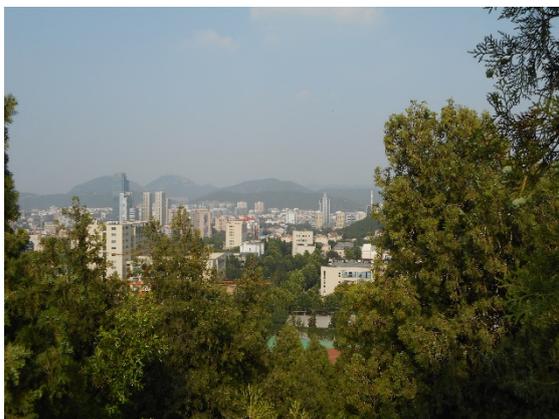
を入れることとしました。集中講義を行った期間済南市は例年になく暑く、講義 2 日目の日の気温は 37 度を記録しました。集中講義を行う教室は冷房が無く、学生さんの集中力も途切れるので 50 分ごとの休憩をいれ、講義以外の話題（本学の様子や、日本の学生生活、日本の名所など）を挿入することで気分転換を図りました。

講義を受講した中国の学生さんの、6 割から 7 割程度が女子学生であったことや、こちらからの質問に対しての返答が早いことが印象的でした。李教授に伺ったところ中国でも放射線技師を目指す女子学生が増えているとのことでした。講義の内容が履修済みかどうか、理解できたかどうかなど学生さんからすぐに返答があるため、内容を修正しながら講義を進めることができました。時間の関係で準備した内容をすべて講義することができず、最終日の午後の講義は学生さんの要望に応じて内容を選択しました。李教授には私の日本語での説明を詳細に中国語で解説していただきましたが、李教授の名解説が無ければ学生さんも途中で飽きてしまったのではと思っています。



講義最終日の記念写真

一日目の講義終了後、李教授に学校の裏山にある展望台に連れていってもらいました。山東医専は全寮制で食堂もキャンパス内にあり学生さんは終日キャンパス内で過ごすそうです。展望台からは山東医専のキャンパスなどが望め、広いグラウンドやテニスコート、高層の学生宿舎などが印象的でした。まさに勉学に集中するような環境となっていることが実感できました。

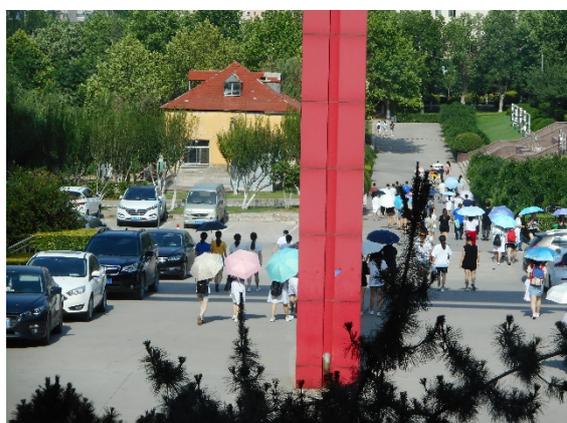


裏山から望む山東医専のキャンパス。右の写真は学生寮

講義を行った建物のホールには書道や、山水画などクラブ活動で制作した学生さんの作品が展示してあるコーナーがあり、ここで中国を感じました。



学生の作品



ホールから望むキャンパス風景

李教授からは卒業生の就職先を考えると山東医専の4年制の大学への移行が今後必要となること、大学の自己評価を行わなければならないこと、これから新学期に向けて忙しくなりほとんど夏休みがとれないことなど休憩時間や食事の時にお話しいただき、国が違っても大学や大学教員が抱えている悩みは何処も同じと感じました。

最後に今回このように貴重な機会を与えていただいた株式会社島津製作所、山東医学高等专科学校、および現地で講義をサポートしていただいた李教授、最後まで集中して講義を聞いていただいた山東医専の学生さん、滞在中お世話になった薛先生、島津中国の方々に改めて感謝申し上げます。また、今回の貴重な経験を、本学での教育に活かしていきたいと思います。



島津中国の方々



ホテルからの済南の眺望  
山の麓に山東医専があります